

申請者	中村 忠司
所属	東京経済大学 コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科
調査課題	海外就業体験を中心とした異文化対応力育成教育に関する研究
調査研究の趣旨	海外インターンシップ研修を通じた異文化理解および対応能力を高めるための教育方法の確認とその評価方法の策定を行う。
内容	<p>海外オンライン研修調査とマレーシアでの海外研修関係受入先ヒアリング調査を実施した。また学生用の教材として1つのテキストを検討した。</p> <p>①海外オンライン研修調査(フィリピン・エンデラン大学 語学+異文化理解・SDGs研修+キャリアセミナー) 2024年2月5日～2月9日 5日間 参加学生16名(2年次生14名、3年次生2名)</p> <p>②マレーシア海外研修受入先ヒアリング調査(国立マレーシア科学大学・日本文化センター) 2024年1月24日～1月28日</p> <p>③海外研修教材の検討(海外危機管理小冊子) 『海外留学危機管理ハンドブック』海外留学生安全対策協議会(2020)</p>
成果	<p>総評</p> <p>①海外オンライン研修調査について</p> <p>・海外オンライン研修については、2020年度より試験的に学部内で実施し、その効果を検証してきた。2023年度までに延べ112人がオンライン研修に参加した。当初はリアルな海外研修の代替として捉えていたが、企業のテレワークやオンライン会議など主となる業務もオンライン化がコロナ収束後も定着していく中で、本格的に導入する研修として効果を把握していく必要がある。</p> <p>・今回同時期にリアルな海外就業体験を実施した夏のカナダ・バンクーバーおよび春のオーストラリア・シドニーの日系企業(旅行会社、メディア)では、コロナの収束後においてもテレワークが基本となっており、就業体験に合わせる形で指導する社員が出社する形であった。</p> <p>・調査対象とした海外オンライン研修は、リアルな海外語学研修でも本校からも参加しているフィリピン・エンデラン大学のエンデランカレッジ・ランゲージセンターの運営によるオンライン研修を5日間行った。オンライン研修参加者の中にリアルでの参加者も含めることで、その差も確認することができた。</p> <p>・研修内容は、語学研修としてマンツーマン・レッスン(Public Speakingとして倫理をテーマ)およびグループ・レッスン(フィリピンの文化とサステナビリティ)、NPO法人 DEAR ME の理事による「海外で働くこと」をテーマにした日本語のキャリアセミナー、修了式である。</p> <p>・リアルでも参加した学生から、「オンラインのグループ授業は、議論に発展せず発表に止まる」という意見があった。リアルなグループ授業では1つのテーマに対して参加学生間の議論があるが、オンラインでは先生から1人1人に対して順番に意見を聞く形が主でグループ・ダイナミクスが働きにくい。</p> <p>・Public Speaking は「倫理」というテーマであったが、普段学生が会話として使わない言葉でもある。抽象的な概念を英語で説明することは難しいのだが、日本ではまずやらない会話ができることは経験になるのではないかと感じた。</p> <p>・異文化理解では、「フィリピンの文化を学ぶことで、自分がいかに日本の文化を語れない、知らないということに気づききっかけとなった」という意見が多くの学生から出た。異国を理解しようとするのが、自国のことを</p>

	<p>学ぶきっかけにもなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセミナーでは現地で子供たちの支援活動を行っている NPO 法人の理事から、活動の意義やその活動に参加している大学生のやりがい、海外で働くことについての講話を行った。学生自身がロールモデルとして受け止めることができた。 <p>②海外研修受入先ヒアリング調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査は、マレーシア・ペナン州にある国立マレーシア科学大学(USM)日本文化センター所長(日馬教育交流担当)を訪問し、ヒアリング形式で行った。 ・調査目的は、①コロナ収束後のマレーシア留学の状況について、②USM での留学生受入れの状況について、③マレーシアでの就業体験の可能性などである。 <p>主な回答としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア留学の魅力は多民族・多文化社会であり、様々な面で多様性を体験できることが挙げられる。また英語が日常の中で使える。 ・費用面でも欧米の大学への留学費用が高騰する中で、マレーシア留学は学費、生活費、暮らしやすさなどの面で実現しやすいと言える。リーズナブルなコンドミニアムも大学周辺にある。さらに政治が安定していて、銃や麻薬への規制が厳しく、治安もとても良い。 ・新型コロナウイルスの収束後も、中国、韓国、中東、インドから多くの学生が留学に訪れている。日本人は少ない。日本人学生は最初寮に入るが、水だけのシャワーなどに慣れず、近隣の安いコンドミニアムなどに移ることが多い。 ・中長期留学が基本で、短期は受け入れていない。 ・学年歴が 10 月 16 日～2 月 25 日(1 期)、3 月 25 日～4 月 8 日(2 期)のため(2023/2024)日本の学年歴を考えると夏季休暇や春季休暇の時期とうまく合わない。 ・外国語学部はあるが、日本語はメインの学科ではない。そのため日本に留学したい学生は少ない。 ・就業体験を兼ねてであれば、国立の大学ではなく私立大学で企業グループが関係する大学がある。ホテルやレストラン、テーマパークを運営し、そこでの就業体験は可能である。 <p>③海外研修教材の検討(海外危機管理小冊子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルな海外就業体験研修(カナダ、オーストラリア、フィリピン)に参加する学生 26 名に『海外留学危機管理ハンドブック』を読んでもらい、どのようなことが役立つかについて感想を聞いた。 ・犯罪や事故に巻き込まれない行動だけでなく、メンタル面での対応に関心のある学生が多かった。特にホームステイに関する不安があることがわかった。 ・クレジットカードを紛失する学生がいたが、このハンドブックの連絡先一覧にカード利用中止の連絡先を書いておくことで、カード会社とスムーズに連絡が取れた。
成果報告	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年 3 月 12 日 東京経済大学コミュニケーション学部 FD 研修において報告。 ・今回の海外受入先ヒアリング調査については、大学ホームページ内の以下の学部特設ページでも報告。 https://note.com/tokecom/n/n1a9662e1ee64
別添資料	<p>FD 研修資料パワーポイント 2023(個人の写真等を含むため、WEB などでの公開はお控えください)</p> <p>研修・現地調査等学部内共有報告資料 2023</p> <p>研修学生向け学内説明資料 2023</p>